

授業科目名	文化コミュニケーション(2000062)		
時間割名	文化コミュニケーション(51203)		
時間割担当	森田良成		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	金・1		

授業の目標・概要

われわれの日常は、広義のコミュニケーション、すなわち他者と何らかのメッセージを絶え間なくやりとりすることで成り立っている。個人のあいだのこうした相互行為によって、「文化」は絶え間なく生じ変化し続けながら、わたしたちの日常に立ち現われている。この講義では、未知なる他者に働きかけるための方法でありかつその成果でもある、ドキュメンタリー映画（および民族誌映画）を題材として取り上げる。映像作品を手がかりに、慣れ親しんできた日常に対する再理解を促し、それを変化・深化させる実践的なコミュニケーションの具体的なあり方とその可能性を考える。

学習の到達目標

自らが社会や日常について抱いている問題意識を他者と共有するために必要なコミュニケーションのあり方、とくに文化相対主義的な考え方と基本的なメディアリテラシーを理解すること。

授業方法・形式

映像作品をいくつか紹介しながら授業を進める。毎回、質問に対する答えやコメントを提出してもらう。

授業計画

- 第1回 イントロダクション： 授業の目標・進め方・成績評価の方法を説明し、授業全体の概要を確認する。
 第2回 テクノロジーとコミュニケーション： 映像技術が可能にする新しいコミュニケーションについて考える。
 第3回 文化とコミュニケーション： 異文化間のコミュニケーションの方法について考える。
 第4回 文化とコミュニケーション： 異文化間のコミュニケーションの方法について考える。
 第5回 価値とコミュニケーション： 相互行為を通してモノが帯びてゆく価値について考える。
 第6回 価値とコミュニケーション： 相互行為を通してモノが帯びてゆく価値について考える。
 第7回 アイデンティティとコミュニケーション： 複数の故郷のあいだで危機にさらされるアイデンティティについて考える。
 第8回 アイデンティティとコミュニケーション： 複数の故郷のあいだで危機にさらされるアイデンティティについて考える。
 第9回 権力とコミュニケーション： 支配に抵抗する方法としてのコミュニケーションについて考える。
 第10回 権力とコミュニケーション： 支配に抵抗する方法としてのコミュニケーションについて考える。
 第11回 暴力とコミュニケーション： 自らが属する共同体に挑戦する方法としてのコミュニケーションについて考える。
 第12回 暴力とコミュニケーション： 自らが属する共同体に挑戦する方法としてのコミュニケーションについて考える。
 第13回 創作とコミュニケーション： 創作のための共同作業から現実が生み出されていく過程について考える。
 第14回 創作とコミュニケーション： 創作のための共同作業から現実が生み出されていく過程について考える。
 第15回 まとめ： 全体のまとめと補足

成績評価の基準

試験 60% 授業への参加・貢献度 40%

(持ち込み一切なしで、作文をしてもらう。 授業での発言のほか、主に毎回提出してもらうコメントから評価する。)

授業時間外の課題

異なる文化、未知なる他者の理解とコミュニケーションをテーマとした著作や映像作品に触れておくこと。

メッセージ

文化人類学とあわせて受講すると、理解がもっと深まるはずです。
 ふだんの読書によって、自ら考えて表現するための作文の基本を習得しておいてください。

教材・教科書

特に使用しない

参考書

参考書： 北村皆雄ほか編（2006）『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ!』 ほか授業中に指示する。